音を視る 時を聴く
坂本龍一

seeing sound, hearing time
Ryuichi Sakamoto

会期｜2024年12月21日［土］–2025年3月30日［日］
主催｜公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館、朝日新聞社、テレビ朝日
協賛｜カカクコム、デジタルガレージ、東邦レオ、NISSHA、ニューバランスジャパン、山田養蜂場
特別協力｜KAB Inc.、KAB America Inc.、ダムタイプオフィス、エイベックス・エンタテインメント、ケィ・ガレージ、タケナカ、東邦レオ、ホットスタッフ・プロモーション、ユニクロ
協力｜J-WAVE
助成｜文化庁・令和6年度我が国アートのグローバル展開推進事業
機材特別協力｜イースタンサウンドファクトリー
技術協力｜ヘキサゴンジャパン
機材協力｜アートウィズ、カラーキネティクス・ジャパン、ブリックス

企画展示室1階

❶《TIME TIME》
坂本龍一＋高谷史郎
2024

本展では、坂本龍一＋高谷史郎によるコラボレーション作品5点を展示する（1階に3点／地下2階に2点）。《TIME TIME》は、2021年初演の舞台作品『TIME』を基に、本展のために制作された新作。坂本が長年意識していた「時間とは何か」という問いを『夢十夜』『邯鄲』といった夢の物語で表現。田中泯が象徴する「人類」と、宮田まゆみの笙、水が象徴する「自然」との関わりを描く。

❷《water state 1》
坂本龍一＋高谷史郎
2013

《water state 1》（2013）では、気象衛星の全球画像から会場を含む地域の降水量データを抽出し、一年ごとに凝縮したデータを用いて天井の装置から水盤に雨を降らせ、同時に音が変化していく。時間の経過に合わせて照明が微妙に変化し、さまざまな表情を見せる。

❸《IS YOUR TIME》
坂本龍一 with 高谷史郎
2017/2024

坂本が2011年の東日本大震災の津波で被災した宮城県農業高等学校のピアノに出会い、それを「自然によって調律されたピアノ」と捉え作品化した《IS YOUR TIME》（2017/2024）では、大自然の営みによって一つのモノに還ったピアノが、世界各地の地震データによって音を発し、地球の鳴動を感知する装置として生まれ変わる。

❹《PHOSPHENES》《ENDO EXO》
カールステン・ニコライ
音楽：坂本龍一
2024

カールステン・ニコライは、「アルヴァ・ノト」名義でも知られ、2002年以降、アルバム制作やライブツアーで坂本と協働してきた。本作ではジュール・ヴェルヌの空想科学小説『海底二万里』から着想を得た初の長編映画『20000』のためにニコライが書いた脚本全24章のうち、《PHOSPHENES》と《ENDO EXO》を映像化する。坂本の最後のアルバム『12』から「20210310」と「20220207」というトラックを用いている。

企画展示室 地下2階

❺《async–first light》
坂本龍一＋アピチャッポン・ウィーラセタクン
2017
《Durmiente》
アピチャッポン・ウィーラセタクン
2021

坂本は、アルバム『async』（2017）を契機に同アルバムを「立体的に聴かせる」ことを意図し、Zakkubalan、アピチャッポン・ウィーラセタクン、高谷史郎らとインスタレーションを制作した。
タイの映画監督アピチャッポン・ウィーラセタクンとの《async–first light》（2017）のために、坂本はアルバムから2曲（「Disintegration」「Life, Life」）を映像用にアレンジした。小型カメラ「デジタルハリネズミ」を親しい人々に渡して撮られた映像には、粗い画面に独特の温かい色味で彼らの私的な日常が切り取られている。

❻《async–immersion tokyo》
坂本龍一＋高谷史郎
2024

本展にあわせて制作された《async–immersion tokyo》（2024）は、坂本の没後に、これまでの「async」シリーズを深化させた形で「AMBIENT KYOTO 2023」で発表された大型インスタレーションを、東京都現代美術館の展示空間にあわせて再構成している。

❼《async–volume》
坂本龍一＋Zakkubalan
2017

Zakkubalanとの《async–volume》（2017）では、坂本が多くの時間を過ごしたニューヨークのスタジオやリビング、庭などの断片的な映像が環境音と楽曲をミックスしたサウンドとともに構成されている。24台のiPhone／iPadが「小さな光る窓」となり、坂本の内面を覗き込むような、胎内にいるような感覚に囚われる。

❽《LIFE–fluid, invisible, inaudible...》
坂本龍一＋高谷史郎
2007

坂本と高谷のインスタレーションには水や霧が重要な要素として繰り返し登場する。《LIFE–fluid, invisible, inaudible...》（2007）は、坂本のオペラ『LIFE』（1999）を脱構築して制作した、映像と音によるインスタレーション作品であり、霧の発生する9つの水槽に映像が投影される。観客は、庭を散策するようにゆっくりと歩みながら、従来のリニアな体験とは異なる時空間の拡がりと流れを体感する。

❾ 坂本龍一 アーカイブ
監修：松井茂
2024

坂本龍一の作品の背景にあった思想、作家が生きた時代、テクノロジーとの係わりを、「坂本龍一の思想」、「戦後アヴァンギャルドの世代」、「YMO以後のメディア・パフォーマンス」、「音楽史以後のオペラ『LIFE』」、「ポストメディアの表現へ」、「ポストヒューマンのエコゾフィー」などの視点から、未刊行資料、刊行物、AIシミュレーションで構成したアーカイブ展示を行う。

サンクンガーデン（地下2階／屋外）

❿《LIFE–WELL TOKYO》霧の彫刻 #47662
スペシャル・コラボレーション
坂本龍一＋中谷芙二子＋高谷史郎
2024

大阪万博のペプシ館を水による人工の霧で覆った「霧の彫刻」（1970年）で知られ、世界各地で霧のプロジェクトを実施している中谷芙二子とのスペシャル・コラボレーションを展示する。坂本龍一＋中谷芙二子＋高谷史郎による《LIFE–WELL TOKYO》霧の彫刻 #47662は、美術館屋外のサンクンガーデンに設置され、霧と光と音が一体となり、自然への敬愛や畏怖の念を想起させるような夢幻のシンフォニーを奏でる。

企画展示室 地下2階

⓫《Music Plays Images X Images Play Music》
アーカイブ特別展示
坂本龍一×岩井俊雄
1996–1997/2024

本作は元々、1996年に水戸芸術館で初演された坂本龍一と岩井俊雄による音楽と映像のコラボレーションであった。岩井の所蔵するアーカイブ資料から発掘された、坂本が演奏する「アルスエレクトロニカ97」でのMIDIデータとその記録映像データから再現展示を行う。岩井が当時のプログラミングを再構築し、坂本愛用のMIDIピアノによって、伝説的なパフォーマンスを甦らせる。先鋭的なメディアを楽しみつつ巧みに使いこなし、音を通した表現の可能性を拡張した坂本の原点ともいえる姿を垣間視る／聴くことができる。

［撮影について］
本展では、企画展示室1階はすべて撮影不可、
地下2階の❻、❽、❾、❿、⓫、⓬のみ撮影可能（動画は1分以内）です。
❾は一部接写不可。下記をご確認の上、会場での撮影をお楽しみください。

ご注意：
撮影の際、作品には手を触れないようにお願いいたします。
光やシャッター音などで他の来館者の鑑賞を妨げないよう
ご配慮いただき、フラッシュ／三脚／自撮り棒の使用はご遠慮ください。
肖像権に触れる場合がありますので、撮影された写真に
意図しない他の来館者が写っている場合、
その取扱い・公開は撮影者の責任でお願いします。
個人利用に限り、営利目的にはご利用になれません。
注意喚起のため声をおかけすることがあります。

［サンクン・ガーデン（地下2階／屋外）への出入口］
❿坂本龍一＋中谷芙二子＋高谷史郎《LIFE–WELL TOKYO》
霧の彫刻 #47662は、霧の中に入って体験をすることができます。
❿の作品を体験するには⓫の作品を通り抜けたあと、1Fに上がり展示室を出てください。チケットカウンターの先まで歩きメインエントランス近くの階段・エレベーターで地下2Fに降ります。講堂前に出入口があります。
毎時00分／20分／40分スタート（各回約5分）

ご注意：
・転倒／衝突など危険防止のため、
　屋外では走らないようお願いいたします
・霧でまわりが見えなくなったら、そのまま動かず、
　晴れるまでしばらくお待ちください

*2月11日より、撮影ルールと❿作品出入口が変更になりました。

中庭（1階／屋外）
*ミュージアムショップ奥の自動扉から屋外へ出てご覧ください。

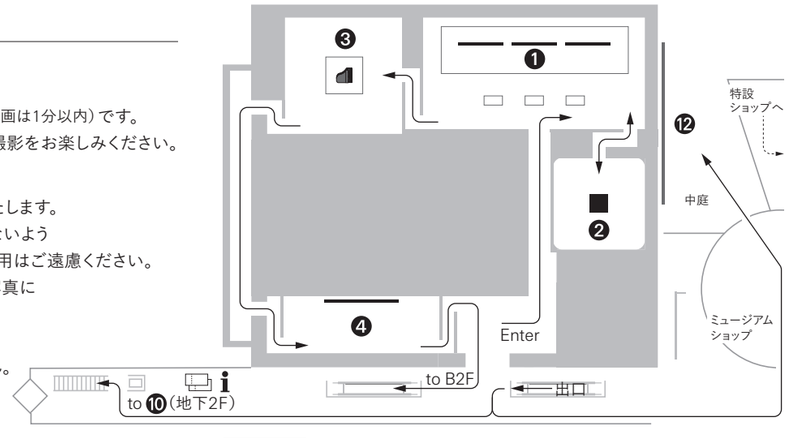
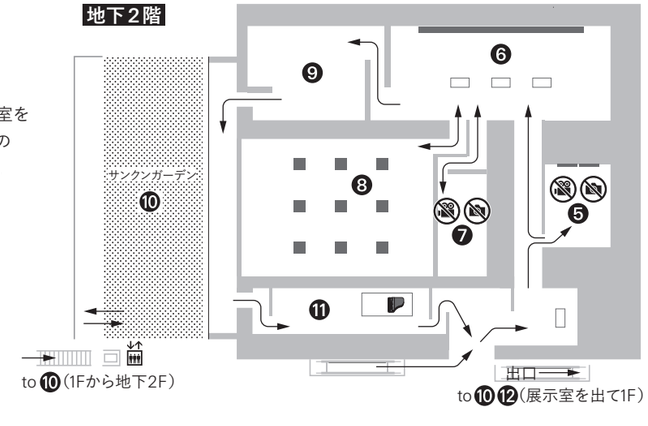
⓬《センシング・ストリームズ 2024—不可視、不可聴（MOT version）》
坂本龍一＋真鍋大度
2024

真鍋大度とのコラボレーションである《センシング・ストリームズ 2024—不可視、不可聴（MOT version）》は、携帯電話、Wi-Fi、ラジオなどで使用されている電磁波という人間が知覚できない「流れ（ストリーム）」を一種の生態系と捉えた作品である。今回の展示のために屋外に16mにわたって延びる帯状のLEDディスプレイを用い、常に変貌を遂げる東京という大都市の目に見えないインフラの姿を映像と音で描き出している。

*屋外作品は、天候等の理由により公開時間を変更する場合があります

坂本龍一｜SAKAMOTO Ryuichi
1952年東京生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMOの結成に参加。1983年に散開後は『音楽図鑑』、『BEAUTY』、『async』、『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞を、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞、グラミー賞など多数受賞。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品や、韓国や中国での大規模インスタレーション展など、アート界への越境も積極的に行なった。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子供たちの音楽活動を支援した。2023年3月28日逝去。

1階 ❶–❹すべて撮影不可



地下2階